

超域思想論 I

科目ナンバリング PHE-201
選択 2単位

宇多 浩

1. 授業の概要(ねらい)

この授業では、西洋の著名な思想家たちの思想に触れながら、西洋思想についての基礎的な教養を身につけることを目標とします。

西洋の思想は、古代ギリシア・ローマ時代の思想を起点とし、中世キリスト教・ルネサンス・近代思想を経て、現代の思想に続いています。西洋思想は西洋文化全体の根幹にあり、西洋文化を知るうえで、西洋思想の知識は欠かすことができません。西洋文化を学ぶための前提として、西洋思想の基礎的な知識を身につけていただきたいと思います。

授業では、一般向けに書かれた哲学書である『ソフィアの世界』をテキストとして用い、各章に登場する有名な思想家の思想を読み解いていきます(前期は古代ギリシア～ヘレニズム時代まで)。西洋の思想を学ぶことが目標ですが、同時に、ソフィアと哲学教師との対話・ソフィアが遭遇するさまざまな謎など、物語の展開も楽しんでいただきたいと思います。

2. 授業の到達目標

- ・西洋の著名な思想家の思想について、その重要用語、基礎概念などを理解している。
- ・テキストを読みながら、それぞれの思想家の重要な主張を自分の言葉でまとめられる。

3. 成績評価の方法および基準

- ・平常点(約40%)、中間試験・期末試験(それぞれ約30%)で総合的に評価する予定。
- ・平常点は、ほぼ毎回使用するワークシートの出来によって評価する。
- ・原則として、欠席が5回を超えた学生は失格扱いとする。

4. 教科書・参考文献

教科書

ヨースタイン・ゴルデル 著 『ソフィアの世界(新装版)上』 NHK出版 2011年

参考文献

須田朗 著 『「ソフィアの世界」哲学ガイド』 NHK出版

5. 準備学修の内容

この授業では、ほぼ毎回、ワークシートを使用し、テキストの要点をワークシートにまとめる作業をしていただきます。作業は授業中に行うこともありますが、原則として授業外の時間に行うことが基本となります。

6. その他履修上の注意事項

西洋思想を初めて学ばれる学生を想定していますので、とくに前提知識は求められていません。しかし、自宅では毎回、次回に扱う章の内容を読んで予習しておくことが求められます。哲学・思想に関心のある方の受講を期待しています。

7. 授業内容

- 【第1回】 講義の概要
- 【第2回】 シルクハット ― 哲学の「問い」にはどのようなものがあるか? 哲学の「問い」を立てることの大切さについて。
- 【第3回】 神話から自然哲学へ (1) 神話をもつ意味は何か? 神話と哲学の思考はどのように違うか?
- 【第4回】 神話から自然哲学へ (2) 自然哲学の系譜。世界は何から出来ているのか? 自然はどうして変化するのか? デモクリトスの原子論について。
- 【第5回】 ソクラテス ― ソフィストとはどのような人々か? 「無知の知」とは? 善悪の基準は変化するのか、共通のものか?
- 【第6回】 プラトン (1) 物の真の原因とは? 真に存在するものは何か? 感覚世界とイデア界
- 【第7回】 プラトン (2) 洞窟の比喩について
- 【第8回】 プラトン (3) プラトンの人間観。肉体と魂の二元論、魂の不滅について
- 【第9回】 まとめと中間試験
- 【第10回】 アリストテレス (1) 物の原因とは何か? 質料と形相、実体の四原因
- 【第11回】 アリストテレス (2) 植物・動物・人間の違い、自然の梯子について
- 【第12回】 ヘレニズム (1) 人はどのように生きるべきか? 自然本性に従って生きる(ストア派)／ 快楽を追求して生きる(エピクロス派)
- 【第13回】 ヘレニズム (2) 新プラトン主義について。神秘主義とはどのようなものか?
- 【第14回】 二つの文化圏 ― 西洋文明の二つのルーツ、イスラエルと旧約聖書、イエスの教え
- 【第15回】 まとめと期末試験